

※ 2009年11月改訂（第2版）（使用期限変更、ストッパー追加）
2009年9月（第1版）

日本標準商品分類番号	872357
承認番号	22100AMX01740
薬価基準収載年月	2009年9月
販売開始年月	2009年9月

【貯法等】：貯法 室温保存
※ 使用期限 製造の翌月から3年（容器・外箱に表示）

ディスポーザブルタイプ浣腸剤
グリセリン浣腸液 50%「東豊」

Glycerin Clyster Soln. 50% TOHO

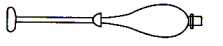
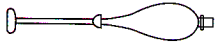
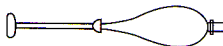
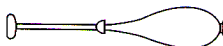
【禁忌】（次の患者には投与しないこと）

- (1) 腸管内出血、腹腔内炎症のある患者、腸管に穿孔又はそのおそれのある患者
[腸管外漏出による腹膜炎の誘発、蠕動運動亢進作用による症状の増悪、グリセリンの吸収による溶血、腎不全を起こすおそれがある。]
- (2) 全身衰弱の強い患者
[強制排便により衰弱状態を悪化させ、ショックを起こすおそれがある。]
- (3) 下部消化管術直後の患者
[蠕動運動亢進作用により腸管縫合部の離解を招くおそれがある。]
- (4) 吐気、嘔吐又は激しい腹痛等、急性腹症が疑われる患者
[症状を悪化させるおそれがある。]

【組成・性状】

- (1) 組成 グリセリン浣腸液 50%「東豊」：100g中
日本薬局方 グリセリン50g含有
添加物としてエチルパラベン、ブチルパラベンを含有する。

- (2) 性状
本剤は無色澄明の粘性の液でにおいはなく、味は甘い。
本剤は内容液を半透明でつなぎ部品のない一体成型のプラスチック容器に充填したディスポーザブルタイプの製剤である。

容量	※外形 (注入部長さmm)	残量目盛 (mL)	挿入目盛 (mm)
40mL	 110	10, 20	先端より 50 100
60mL	 110	10, 20	
110mL	 110	20, 30 40, 50	
150mL	 110	20, 30 40, 50	

【効能・効果】

浣腸用として用いる

【用法・用量】

浣腸用として通常、30～60mLを用いる。

なお、年齢・症状により適宜増減する。

※〈用法・用量に関連する使用上の注意〉

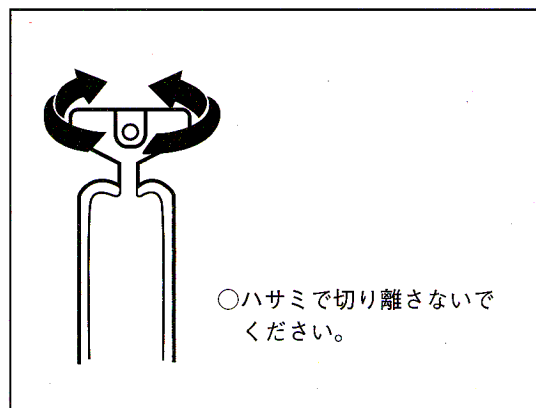
直腸内注入方法

本品は完全一体成型容器となっております。

ご使用の際は下記に従い、お使いください。

- (1) 本剤を温湯（約40℃）で体温近くまで加温する。
- (2) 注入管を精製水等で洗浄する。
- (3) ストッパーをスライドさせ挿入深度を合わせる（小児の場合3～7cm、成人の場合は6～10cm）。
- (4) 注入管の挿入部を片手で持ち、他方の手で先端部の栓を摘んで、左右いずれかに回すように捻じ切り、少量の内容液を出して先端部を潤すかあるいはオリブ油、ワセリン等を塗布して肛門内に挿入しやすくする。

（下図参照）



- (5) 注入管をストッパーの位置まで緩徐に肛門内に挿入する。
- (6) ストッパーを片手で固定しながら他方の手で胴部を握り、徐々に内容液を直腸内に注入する。注入終了後力を緩めずに注入管を慎重に抜き、肛門部を脱脂綿等で押さえる。
- (7) 通常5～10分後便意が強くなってから排便させる。

【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- (1) 局所（腸管、肛門）に炎症・創傷のある患者
[出血を促し、グリセリンが吸収され溶血を、また、腎不全を起こすおそれがある。]
- (2) 腸管麻痺のある患者
[蠕動運動亢進作用により腹痛等の症状を増悪させるおそれがある。]
- (3) 重症の硬結便のある患者
[浣腸剤では十分な効果が得られず、腹痛等の症状を増悪させるおそれがある。]
- (4) 重篤な心疾患のある患者
[症状を増悪させるおそれがある。]
- (5) 乳児
[患児側の反応を十分に把握できない場合、過量投与に陥りやすい。]
- (6) 高齢者、妊婦（「高齢者への投与」、「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照）

2. 重要な基本的注意

連用による耐性の増大等のため効果が減弱し、薬剤に頼りがちになることがあるので長期連用を避けること。

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

その他の副作用

	頻度不明
過敏症 [※]	発疹等
消化器	腹痛、腹鳴、腹部膨満感、直腸不快感、 肛門部違和感・熱感、残便感等
循環器	血圧変動

注) このような場合には投与を中止すること。

4. 高齢者への投与

高齢者では過度の瀉下作用により体液量の減少等をきたし、脱水等を起こすことがあるので、少量から開始するなど慎重に投与すること。

5. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1) 妊婦

妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。

(2) 流産

子宮収縮を誘発して流産を起こす危険性があるので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。

6. 適用上の注意

(1) 投与時

- 1) 浣腸用により使用すること。
- 2) 注入に際し、直腸粘膜を損傷することがあるので、慎重に挿入すること。
挿入時、損傷を起こし、出血がみられた場合、グリセリンが血管内に入り、溶血を起こすおそれがある。
- 3) 患者の状態を観察しながら投与し、異常が認められた場合には直ちに投与を中止すること。

(2) 投与後

連続の使用を避け、1個を1回で使用し、使用残液は容器ごと廃棄すること。

【薬効薬理】

グリセリンは、直腸内への注入によって腸管壁の水分を吸収することに伴う刺激作用により腸管の蠕動を亢進させ、また、浸透作用により糞便を軟化、潤滑化させることにより糞便を排泄させると考えられている。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：[日 局] グリセリン (Glycerin)

[日局別名] グリセロール

構造式：CH₂OH

|
CHOH

|
CH₂OH

化学名：1,2,3-Propanetriol

分子式：C₃H₈O₃

分子量：92.09

性状：日本薬局方グリセリンはグリセリン (C₃H₈O₃)

84.0～87.0%を含む無色澄明の粘性の液で、味は甘い。

水又はエタノール(99.5)と混和する。

吸湿性である。

【包 装】

40mL×20個、60mL×10個、
110mL×10個、150mL×10個

【文献請求先】

東豊薬品株式会社 学術部

〒124-0025 東京都葛飾区西新小岩4-15-3

発 売 元



吉田製薬株式会社

東京都中野区中央5丁目1番10号

製造販売元

東豊薬品株式会社

東京都葛飾区西新小岩4-15-3